

# ～人口の現状について～

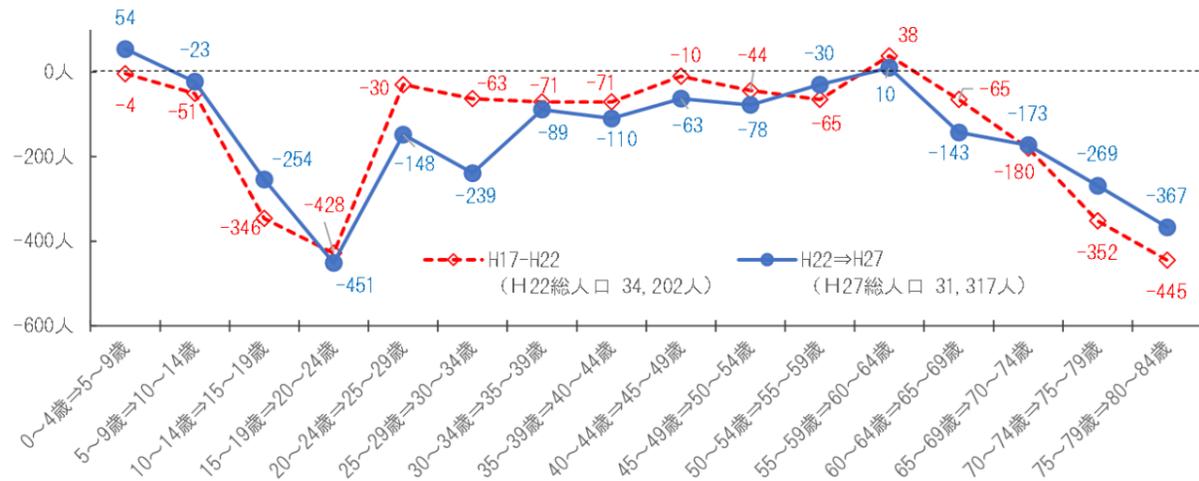
## 【社会移動の年齢階級別分析】

### ≪人口コーホート分析（年齢階級毎の5年後の人口との比較による分析）≫

●直近の国勢調査(2010年～2015年)における年齢階級別人口移動をみると、0～4歳⇒5～9歳と55～59歳⇒60～64歳は人口増となっていますが、その他の年齢階級においては人口減となっています。

●また、第1期人口ビジョンを策定した際の国勢調査(2005年～2010年)における年齢階級別人口移動と比較すると、19歳未満では人口減は改善されていますが、15～19歳⇒20～24歳から45～49歳⇒50～54歳までは減少幅が大きくなっています。【図1】

【図1 年齢階級別人口移動 [コーホート分析] (2005年⇒2010年と2010年⇒2015年)の比較】



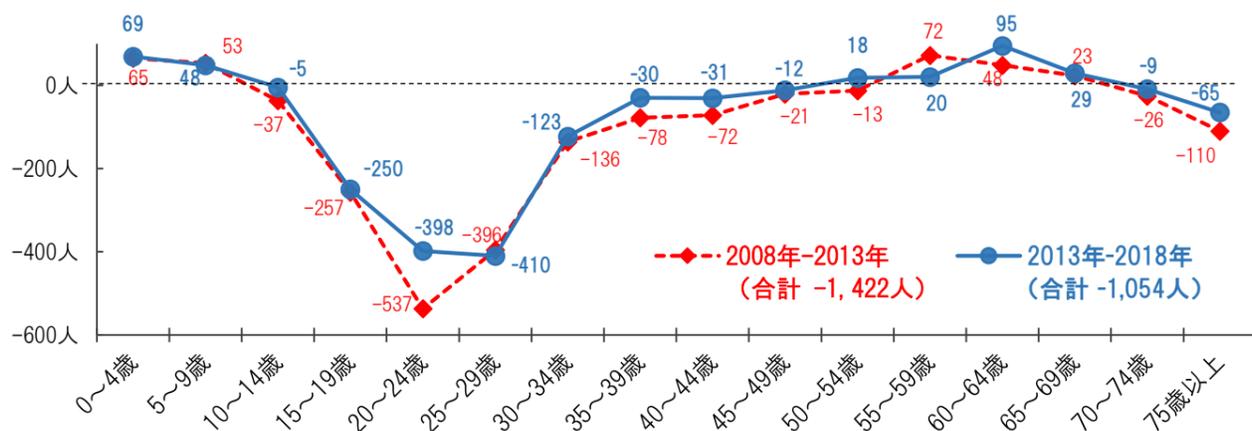
資料：国勢調査

### ≪直近6年間の年齢階級別人口の状況≫

●直近6年間(2013年～2018年合計)の年齢階級別社会動態をみると、0～10歳・50～69歳において転入が転出を上回っています。特に60～64歳は95人の増加と、比較的多くなっています。

●また、第1期人口ビジョンを策定した当時の直近6年間(2008年～2013年合計)における年齢階級別社会動態と比較すると、市全体の社会減の人数は1,422人から1,054人と、368人も改善されています。特に、20～24歳の若い年齢層の社会減の人数が139人も少なくなっています。【図2】

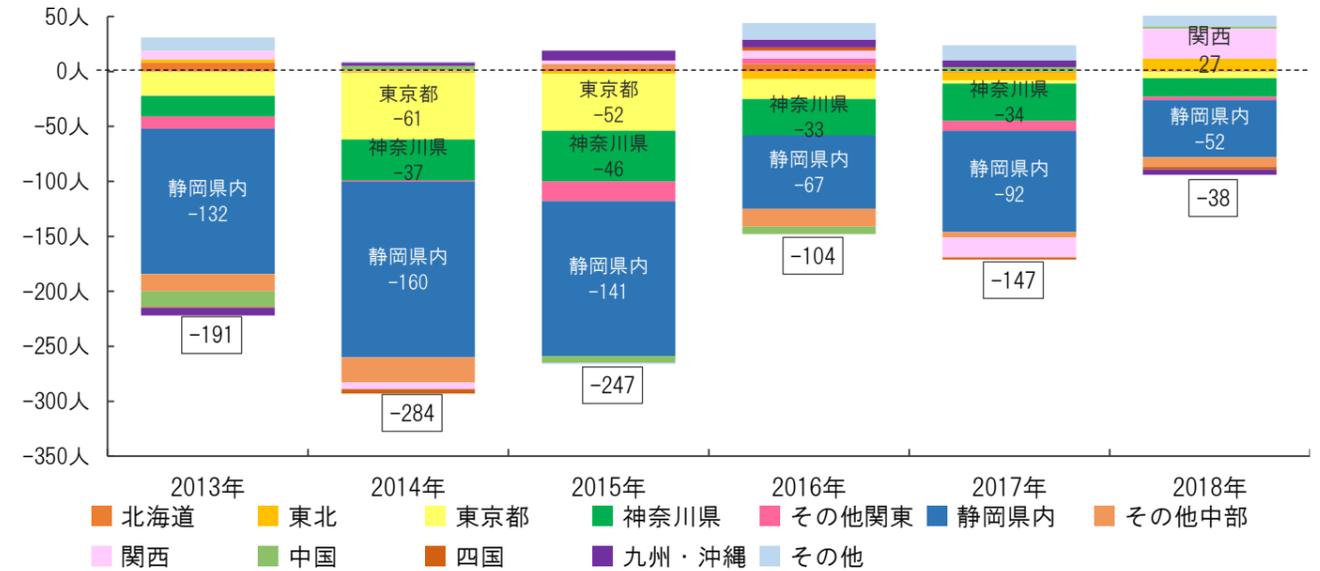
【図2 年齢階級別社会移動 (2008年～2013年と2013年～2018年)の比較】



## 【社会移動の地域別分析】

●地域別社会移動の状況を見ると、いずれの年も静岡県内の他市町への転出が多くなっていますが、2016年以降は静岡県内の他市町への転出が100人を下回りました。【図3】

【図3 地域別社会移動の状況】



●静岡県内他市町への転出・転入を詳しくみると、伊豆の国市への転出が多い状況です。その他では、三島市、沼津市、函南町への転出が多くなっています。【図4】

【図4 地域別（県内市町）社会移動の状況】

